東京日日新聞發行

北支事變明細圖解

日・滿・露・支・蒙・關係一覽



近代化した支那軍備

總兵力二百七十五萬

空軍機九百四十台

優秀武器續々採用

支那陸軍總兵力は一九三六年四月現在で二百廿五萬二千七百五十人といはれ、この外不正規軍五十萬あり、これを加算すれば約二百七十五萬に達する、これらの軍隊は師旅、團、連、營、排、班といふ組織で、師は日本の師團に當り、二旅または三旅をもつて組織し、旅は日本の旅團に相當し、一旅は二團または三團よりなる、團は日本の聯隊にあたる、その下に大隊たる連、中隊たる營、小隊たる排、分隊たる班となるのであるが、支那軍の現狀においては軍隊によつて師以下の編制は多種多樣なので、一ケ師の數も一定せぬが約二萬見當である、なほ軍は數ケ師（普通四ケ師二獨立旅からなる）からなつてゐる、かくの如く、支那軍は編制において種々雜多なるのみならず、訓練、兵器の點は勿論、命令系統からいつても種々雜多のものであるが、南京政府樹立以來北伐革命軍中の蔣介石直隷下の軍隊を中心に中央軍を形成、これに漸時諸軍を合體して來た、滿洲事變以來の國難切迫感、抗日激情の奔流により、蔣直系軍を樞軸とする支那軍の擴大强化策は國民の全幅の支持を受けるに至つた、かくてドイツ軍備再建の立役者フォン・ゼクート將軍を迎へていはゆる整理師團の建設、增加、これを中心とする國軍化の運動を起して、整理、編制、訓練、兵器の改良統一、命令系統の統一を急いだ、かくて昨年の西南問題、本年の西安事件の解決によつて支那全土の全般にわたる國軍化即ち地方軍の私兵的構成の破壞を大體完了し、半獨立性を有する山東冀察の軍隊と雖も南京の統一的命令系統に入つてゐるのである

しかして軍隊全般の規格統一ともいふべき內容充實政策は蔣介石の股肱たる軍官學校卒業生の率ゐる軍隊の整備を中心に行はれかく整備强化された師團を整理師團と名づけてゐる、これ等は蔣介石を偶像視し、國家主義で固められ、裝備、訓練ともに殆ど近代諸國軍隊の水準に達せんとしてゐるのである、これらの訓練は從來日本式であつたが最近ドイツ式に改められんとしてゐるのである、この整理師團の數は本年春にはすでに廿三ケ師團に達してゐる、西安事變後の擧國的統一建設の重心もまたこゝに置かれ、抗日戰準備を目標に支那全軍の改組を進め、地方軍隊の整理强化のために何應欽は明治維新の「藩籍奉還、廢藩置縣」の例にならへと獅子吼してゐるのである

しかして南京の軍備强化はドイツが軍備の基礎を航空隊においた如く、飛行隊は抗日軍備の突端に立つて進められ、すでに八百五十台の軍用機を持つに至り、その他に九十機あり、しかもこれ等は英、米、獨、伊、佛製の優秀なもので、日本にないやうなすごいものも相當にある、とさへいはれてゐる（勿論このことは飛行機の不統一を來す點でその綜合力において價引して考へられねばならぬ）操縱士、飛行隊の全面的訓練においては幼稚であるが最早や軍隊、民間を通じ操縱士は相當の數に達してゐるのである、從來の日本の支那軍に對する觀念から見れば驚くべき急進歩である、高射砲、大砲、機關銃等の兵器の改良、增加も着々行はれ、タンクの如きも五、六百台に達してゐるといはれる支那の綜合武力は上海事件から見れば急速に科學化され强化されて來てゐるのである。

昭和十二年七月廿五日印刷
昭和十二年七月廿九日發行

複製ヲ許サズ

發行所 東京日日新聞社
印刷所 東京市麹町區內幸町一丁目六番地 精版印刷株式會社東京工場

William C. Wonders Map Collection
University of Alberta Libraries